

# ファンコイルユニット配管使用上の注意事項

## ● 設計・施工上の注意事項

- 冷温水配管に使用し、エア配管、薬液配管、蒸気配管には使用しないでください。
- 使用温度・最高使用圧力は下表の範囲内で使用してください。

| 使用温度(℃)     | 0~20 | 21~40 | 41~45 | 46~50 | 51~55 | 56~60 | 61~65 | 66~70 |
|-------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 最高使用圧力(MPa) | 1.50 | 1.25  | 1.15  | 1.10  | 1.05  | 0.95  | 0.90  | 0.85  |

▲ 70℃を超える循環配管系統には使用しないでください。

- 水撃（ウォーターハンマ）が発生する配管には使用できません。
- 過度の振動および衝撃の加わる場所では使用できません。
- 機器への分岐配管に使用します。主管には使用できません。
- 継手はパイプに接続された状態でも回転できますが、過剰な引張り荷重や極度の回転は破損を招くため、避けてください。
- スチーム配管等の高温配管との接触または近接配管を避けてください。
- 保温材ではなく、裸管に直接支持金具を取り付ける場合は、樹脂製（軟質塩ビ除く）のものを使用してください。
- 罅間気温湿度が常時高温多湿（使用温度を超える、湿度 80%を超える）となる場所の配管には使用しないでください。
- 当社販売のパイプと継手を使用してください。
- 結露の恐れがある場合には、必要に応じて対策を施してください。なお、保温材厚については、地域・使用条件・設置箇所等を考慮の上、必要な厚さのものを選定してください。
- 通水温度が高い場合、パイプの性能は大きく影響を受ける恐れがありますので配管更新を考慮した設計・施工方法としてください。
- ファンコイルユニット本体近傍の天井面に、必ず点検口を取付けてください。点検口は、エア抜き操作、バルブ操作などがしやすいように、ユニット本体の配管側に設けてください。
- 冷温水配管等では、運転停止時の外気温度上昇等に伴う、パイプ内圧力の上昇を防止するために、管路に膨張弁や逃し弁等を設置してください。特に主管から分岐された枝管に電動弁等バルブが設置された場合、バルブ閉の状態ではこの枝管部分が密閉配管となり、パイプ内圧力が上昇する可能性がありますので、注意してください。
- 防火区画を貫通する場合は、適切な処理を施してください。
- 水質は、JRA GL-02-1994「冷凍空調機器用水質ガイドライン」を守ってください。
- パイプを曲げる場合は曲げ半径を守ってください。

- 保温材付管の曲げ半径(mm)

| 呼び径 | 最小曲げ半径 | 推奨曲げ半径 |
|-----|--------|--------|
| 13  | 150    | 400    |
| 16  | 200    | 500    |
| 20  | 300    | 700    |

- 衝撃などによって、パイプが座屈したり折れた場合、そのパイプは使用しないでください。
- パイプの露出部及び継手は保温を施してください。
- 継手を支点にパイプを曲げないでください。パイプが座屈する恐れがあります。
- 継手接続部より直ぐにパイプを曲げて、配管しないでください。パイプは継手から200mm以上のストレート部を設けて、曲げ配管を行ってください。
- パイプは専用のパイプカッターを使用して出来る限り直角に切断してください。斜め切れのパイプ、段切れのパイプ、キズ・座屈・扁平のあるパイプは使用しないでください。
- パイプの二度切りはしないでください。
- キズ・異常のあるパイプ・継手は使用しないでください。
- 挿入部のパイプの内外面にキズ・汚れ・ゴミの付着が無いことを確認してください。
- パイプ挿入前に、継手の中にゴミ・ホコリの侵入がないことを確認してください。
- 継手を一度施工するとパイプが外れない構造になっていますので、継手の再使用はできません。
- 施工の際に潤滑剤や溶剤、洗剤などを使用しないでください。
- パイプには、塩ビテープ・粘着テープを直接まかないでください。
- 継手は分解しないでください。

## ● 運搬・保管上の注意事項

- 屋外に放置しないで、屋内に保管してください。
- 直射日光・紫外線を避け、屋内常温にて保管してください。
- 保管場所で火気は使用しないでください。火の粉や熱によってパイプや継手が劣化する恐れがあります。
- パイプ及び継手はベンゼン・トルエン、灯油等の有機溶剤及びそれらを含む製品、防腐剤等の薬品類と一緒に保管しないでください。
- 運搬中の落下・衝撃・引きずり等により、製品にキズがつくまたは、製品を破損する行為は行わないでください。